

スポ推よこすか

Vol.15

平成24年
6月1日発行



発行責任者 横須賀市スポーツ推進委員協議会 会長 武 雅兄

「スポーツ推進委員になって」

スポーツに関連した包括的な法律「スポーツ振興法（昭和36年施行）」は、スポーツが広く浸透し、目的や波及効果が多様化する状況に対応するため、平成23年に議員立法により「スポーツ基本法」に変更になりました。スポーツは個人や地域・国の力を誇示するだけのものではなく、①スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むこと。②スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参加すること。③スポーツは、地域社会の再生・健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠なこと。④スポーツを通じた交流や貢献が、国際平和に大きく貢献すること。と前文に記載され、より生活に密着したものとしてスポーツを捉える法律に変わりました。

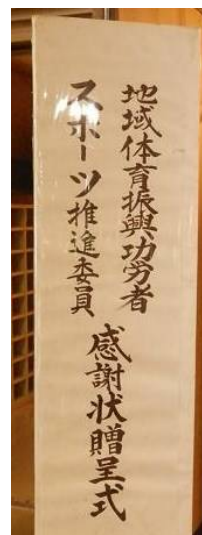
この施行を受けて、横須賀市でも昨年12月に議会の承認を得て教育委員会規則が改正されました。内容は、「スポーツ基本法施行に伴う体育指導委員規則の一部改正について」として皆さんに配布された通りです。50年間慣れ親しんでまいりました「体育指導委員（略称：体指）」はスポーツの実技指導や助言を行う役割から、目的がスポーツ推進に係る体制の整備を図るためと記述され、職務も指導助言に加えて事業の実施に係る連絡調整が加わった「スポーツ推進委員」に変わりました。言葉の違いは分かりますが、何ごどの様になるのかはハッキリとした定義はありません。事業実施に当たっても、様々な団体や方々と連絡を取りながら進めてまいりましたので、当面は今まで通り進めます。少しずつ、スポーツ推進委員のあるべき姿、やるべき仕事を見つけて、作って行きましょう。私達スポーツ推進委員が、地域に一番密着したスポーツ推進役であることに変わりはありません。

言葉の通りに、地域のスポーツ推進に、協議会の発展に、皆さんのご協力をお願い致します。

スポーツ推進委員協議会 会長 武 雅兄

今年度もスタートしました!!!

平成23年度末・24年度新年度総会が4月15日（日）市立総合福祉会館にて行われました。今年度からは、会長からのご説明通り、「スポーツ推進委員」と呼称も新たになり、心機一転です。当日は83名の委員の出席で始まり、桜学区・池田氏が議長となり、活発な意見が繰り広げられました。例年通り昨年度事業・決算・監査報告、新年度事業計画・予算案を討議していき、全議案が通りました。会長からのスポ推としてのガイドライン講義も行いました。また、総会前には23年度地域体育振興功労者感謝状受賞者として船越学区の鈴木一治氏、スポーツ推進委員感謝状受賞者として桜学区の坂上浩二氏・池田正英氏、山崎学区の石渡隆司氏・畠裕幸氏、豊島学区の本橋義宏氏、明浜学区の大村友次氏に永妻和子教育委員会教育長より賞状の授与がありました。受賞者の皆様おめでとうございます。



これからも地域に密着した活動はもちろん、その先へリードして行くために協議会独自の事業の推進、ニュースポーツの普及、推進委員の資質向上などを各自の役割とし、時代に相応しいスポーツ推進委員を目指しましょう。

広報部 部長 原 暁彦

24年度スポ推「新任研修会」

武会長就任以来実施され、今年4年目となる「新任研修会」が5月19日（土）桜小学校で開催されました。桜小学校は校章が中央に『桜』の文字で子供を表し、囲むように咲く三つの桜の花は学校・家庭・地域を表し、子供達の健やかな成長を願ったものとお聞きしました。学校隣接公園には市内でも唯一の相撲の土俵が有る整備された学校で、スポーツ推進委員研修会にふさわしい会場でした。今年の新任研修受講者は11名。

午前9時、林副会長の司会のもと開始され、武会長からは挨拶とスポーツ推進委員協議会の年間事業計画・スポーツ推進委員の役割仕事などのお話、続いて市教委伊藤課長からスポーツ基本法・推進委員規則などのお話があった。その後研修参加者を3つのグループに分け、それぞれに協議会役員が入り、グループ毎のフリーディスカッションが行われた。スポーツ推進委員になったきっかけ、推進委員になってみて何を感じたか、地域での役割を果たすには、スポーツ推進委員のリーダーとしての自覚、地域の人に行事に参加してもらうにはなどなど、スポーツ推進委員としての意識・意欲が高く新しい風として大いに期待したいと感じました。その後、レクリエーションとして〈ソフトバレーボール・カローリング体験〉で一汗流し、片付けのあと12時に閉会しました。新任スポーツ推進委員の皆さんには、これからのスポーツ推進のさらなる発展に寄与して頂く大いなる新しい風を期待しております。

広報部 副部長 押井 秀夫（鷹取学区）



研修受講者は11名



カローリング体験講習

地区交流会・情報交換会

平成24年5月27日（日）、北体育会館に於いて北地区スポーツ推進委員交流会が開催されました。今回は、武会長、鈴木副会長はじめ、追浜から沢山までの9学区のスポーツ推進委員と体育振興会会長に参加を呼びかけたところ、総勢33名となりました。

12名の実行委員は、早朝8時に集合し、担当ごとに第一部の「ソフトバレーボール研修会」の準備に取り掛かりました。コート設営については4回目ともなると慣れたもので、スムーズに終わることができ、8時30分から「ソフトバレーボールのルールの確認・審判の研修及び実技」を行い、11時から第二部の「学区別活動状況情報交換」を行いました。

第一部の「ソフトバレーボールの実技」では、1チーム4～5名構成の6チームのトーナメントで5試合と3位及び5位決定戦の2試合を行いました。決勝戦は見ごたえある内容で、1セット目15:17、2セット目15:11、3セット目15:7となり、また途中でイエローカード(?)が与えられるほど白熱した試合展開となりました。回を増すほど推進委員のレベルアップが図られていると感じています。ただ、審判に関しては上級者との差はまだままで、推進委員のスキルアップが課題と感じています。

第二部の「学区別活動状況情報交換」では、ほとんどの学区でソフトバレーボールの普及に肯定的で、今後もこの交流会で継続を望む声が多くありました。これを受けて来年の交流会の日程が5

月26日（日）に決まりました。次回は「ソフトバレーボール研修会」に関しては、各人がテーマ（実技のレベルアップ、審判のスキルアップ等）を持って参加し、より実りある研修会にしたいものです。

広報部 中川 裕司（長浦学区）



白熱の決勝戦!!!

平成24年度「普通救命講習会」開催

講習会の開催趣旨は、「スポーツ推進委員が、市主催事業や学区における活動の際、けが人などに対して適切な対応が出来るようにする」ことですが、昨年発生の東日本大震災以降、横須賀直近・直下の南関東地震や、三浦半島断層群地震などの高い確率での発生の可能性が高まり、にわかにかんがって専門家により厳重なる警戒の必要性が訴え出され始めました。当然、こうした災害時においても、尊い人命の救助は、率先されなければなりません。

こうした中、「普通救命講習会」が、市教育委員会並びに市スポーツ推進委員協議会主催のもと、5月26日（土）メインアリーナ第1体育室において、市消防局（中央消防署第3救急隊）の池ノ野 修氏を講師に迎え、開催されました。対象者は、スポーツ推進委員で、12名が受講（他に2名の研修補助が参加）いたしました。テキストは、改訂4版を使用しての講義でした。改訂3版との大きな違いは、発見者が周囲に助けを呼んだ後、（改訂3版は）、気道の確保、人工呼吸という流れになりますが、改訂4版では、まず呼吸の確認（6秒）をし、胸や腹部を見ながら「普段通りの呼吸」をしているかを確認し、呼吸していなければ人工呼吸の前に胸骨圧迫し、全身に血液を送ることです。胸部圧迫のテンポは、1分間に100回程度の速いテンポが必要で、アンパンマンや、前のドラえもんの主題歌が適しているそうです。人工呼吸については「体の中に残っている酸素を活用出来るので、必ずしも人工呼吸は必要ない」との講師の説明からして、人工呼吸にこだわる必要はないが、胸骨圧迫30回終了後、気道確保し、胸が軽く上がる程度の人工呼吸（口対口人工呼吸）を2回すれば、より効果的とも言えます。

※1 救急隊に引き継ぐまで、胸骨圧迫30回→人工呼吸2回を繰り返すが、人工呼吸がためらわれる場合は、胸骨圧迫のみ継続する。

AED（自動体外式除細動器）については、電気ショックの連続回数を3回から1回にすると共に、電気ショック後ただちに胸骨圧迫を行うように改訂された。

受講者全員の応急手当にかかる時間は概ね次の通りでした。

傷病者発見

↓ 20秒程度

胸骨圧迫

↓ 1分程度

AEDパッド装着

↓ 1分30秒程度

電気ショック

↓ ほぼ1秒未満

胸骨圧迫

※2 救急隊が到着したら、必ず電気ショックは何回したか？など聞かれるので、その点を留意
「心臓や呼吸が止まった人の治療は1分1秒を争います。（中略）心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、その後約10分間に急激に少なくなっていく。」（テキストより抜粋）の通り、時間との戦いです。テキスト中の平成23年度の実績によれば、電気ショックを救急隊が行った場合と市民が行った場合の1ヶ月後社会復帰率は、各17.9%、38.2%で圧倒的に市民が行った場合の方が高い結果となっています。これは傷病者発見から応急手当までの時間差が大きな違いになっているものと思います。

広報部 臼井 喜八郎（森崎学区）



関東研究大会・長野県

平成24年6月1日(金)・2日(土)の両日に、長野県松本市の松本文化会館をメイン会場として、関東スポーツ推進委員研究大会が開催されました。大会は、関東1都8県のスポーツ推進委員1,442名が参加され、盛大な大会となりました。

今大会は「楽しく 仲良く 心とからだの健康づくり」をテーマに初日は、関東スポーツ推進協議会表彰式及び基調講演、2日目は分科会が中心となる内容でした。今年度、横須賀からは、武会長ほか事務局合わせて5名の参加で永年の御活躍に対して久里浜学区の小川榮次さんが表彰をお受けになりました。アトラクションは、アルプホルン演奏「乗鞍アルプホルン愛好会」・ジャズバンド演奏「JAZZ☆CANDY from 蓼科高校ジャズクラブ(平成16年に公開された映画「スウィングガールズ」のメインモデルとなって注目を集めた)が行われ、両者ともに場内を魅了させていました。

基調講演は、「挑戦は、未来をひらく」という演題で荻原健司(ノルディック複合 五輪金メダリスト/北野建設スキー部部長)を講師として行われました。お話の内容は、なぜ私がスキー選手になっていったか(地域・家族の挑戦)・その後のトップアスリートとしての自分自身への挑戦・現在5名の選手の指導者としての私の挑戦をキーワードにスポーツ推進委員の気持ちをぐいぐいひきこんでゆく巧妙な話術で興味深く聞き入りました。

特に初めて世界大会に参加した時、兄弟でワーストになり、世界の壁が高く技術・身体は元よりトップ選手の「目つきが自分とは全然比較にならないくらい違っていた」事に愕然としたそうです。

何が何でもメダルを取る!という目つき、それが自分には大きく欠けていたと話されました。

2日目は、第4分科会「城下町まつもと湧水巡りウォーキング」に参加しました。

「松本市まちなか観光ボランティアガイド」の方に説明して頂き、城下町に15箇所ある湧水を飲み比べしながら回りました。天候も良く最高でした。

最後に、演題にもありますように私たちスポーツ

推進委員は、常に挑戦あるのみです。住みよい街横須賀を目標に地域活性化にがんばりましょう。

次年度(平成25年6月7・8日)は、神奈川で開催ですので、皆様の絶大なる協力をお願いします。



表彰式・小川さん



荻原健司氏

副会長 石川 輝雄(森崎学区)

今後の予定

- 6月17日 高齢者健康のつどい
 - 6月24日 第2回ソフトバレーボール大会
 - 7月29日 学区対抗児童ミニバスケットボールソフトボール大会
 - 9月 2日 学区対抗成人バレーボールソフトボール大会
 - 9月 9日 藤沢市・横須賀市交流研修会
- ★ご協力お願いいたします★

編集後記

いよいよ24年度も始動し、今年度からは、我々の名称も「スポーツ推進委員」となりました。

小学校へ出向く新体力テスト測定員や他市との交流会もあり、コミュニケーションを取る機会も益々増えてきます。昨年起きた東日本大震災以降、地域の方達との交流やボランティア活動などが注目されつつあります。私達はスポーツを通じて交流を図るチャンスがたくさんあります。もちろんスポーツ競技をすることだけでなく、人対人の会話も大切です。イベントなどに是非参加して頂き、コミュニケーション能力も身につけていきましょう。

広報部 部長 原 暁彦

横須賀市スポーツ推進委員協議会ホームページ

<http://sukataishi.jp/>